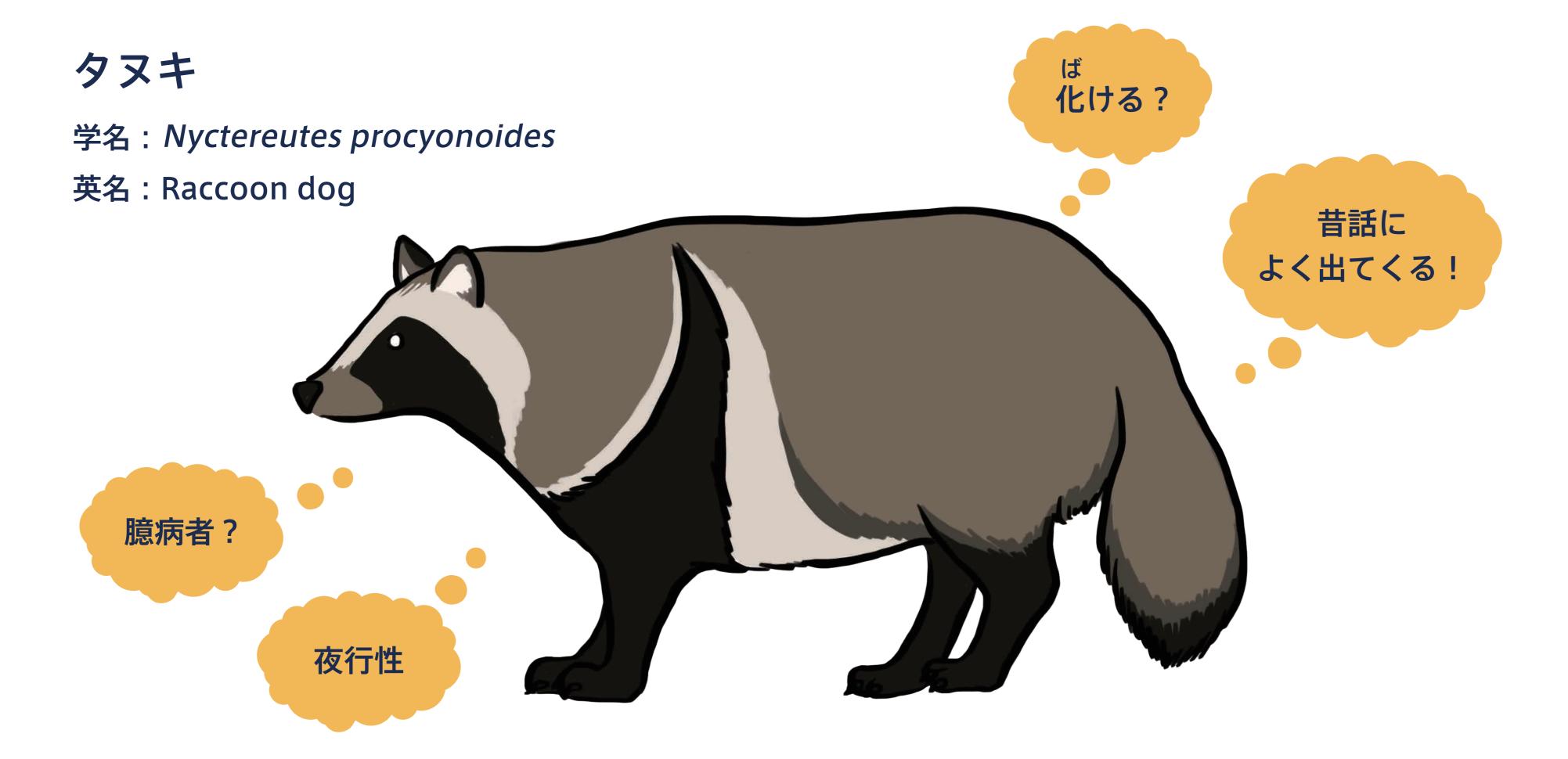
タヌキってどんな動物?



食肉目イヌ科タヌキ属に属する哺乳類です。

体の大きさは 50~60 cmほどで、体重は 3~5 kgです。キツネなどに比べると脚が短くずんぐりとした体形をしています。灰色や黒の体毛に白い毛がまだらに生えており、山地から住宅地周辺までの幅広い環境で生活しています。

タヌキの分布



日本には、北海道のエゾタヌキと、本州・四国・九州に生息するホンドタヌキの2亜種が分布しています。 見た目は非常に似ていますが、エゾタヌキの方がホンドタヌキよりもやや身体は大きく、毛が長いとった特徴があります。

国外ではロシア、朝鮮半島、中国など極東にも分布しており、ヨーロッパでは毛皮を取る目的として連れてこられたものが定着しています。

タヌキの 生活する環境



タヌキは、平地から低山にかけて生息しています。 同じ大きさの他の哺乳類よりも環境の適用力が強く、 郊外や里山のような人の手が加わっている環境にも暮 らしており、東京都の 23 区内でも暮らしているほど です。人里で見られることから、昔話で描かれたり、 ことわざに使われたりと、昔から身近な動物であった ことがわかります。しかし、主な生息環境であった里 山の減少に伴って、徐々にその生息数は減ってきてい るといわれています。

間違われやすい動物たち

人里近くに暮らしていたタヌキも、都市開発の影響で生息地が減り、今やあまり身近な生きものに感じられないというか方も多いのではないでしょうか。実際に、来館者の方より「どれがタヌキですか?」と 質問をいただくことも多く、日本人のタヌキ離れが進んでいるのかもしれません…。

さあ、ここではタヌキとよく間違われる、似た動物たちをご紹介します。外来種を含め、全て高尾山に 生息している動物たちですので、ぜひ見分けのポイントをチェックしてみてください。

タヌキ

警戒心が強く、臆病な性格。 夏と冬とでは毛が生え変わるため、冬毛のずんぐり見えるタヌキ に対して、夏毛のタヌキは細く、痩せたように見える。

体長:50~60 cm

ひげは黒く

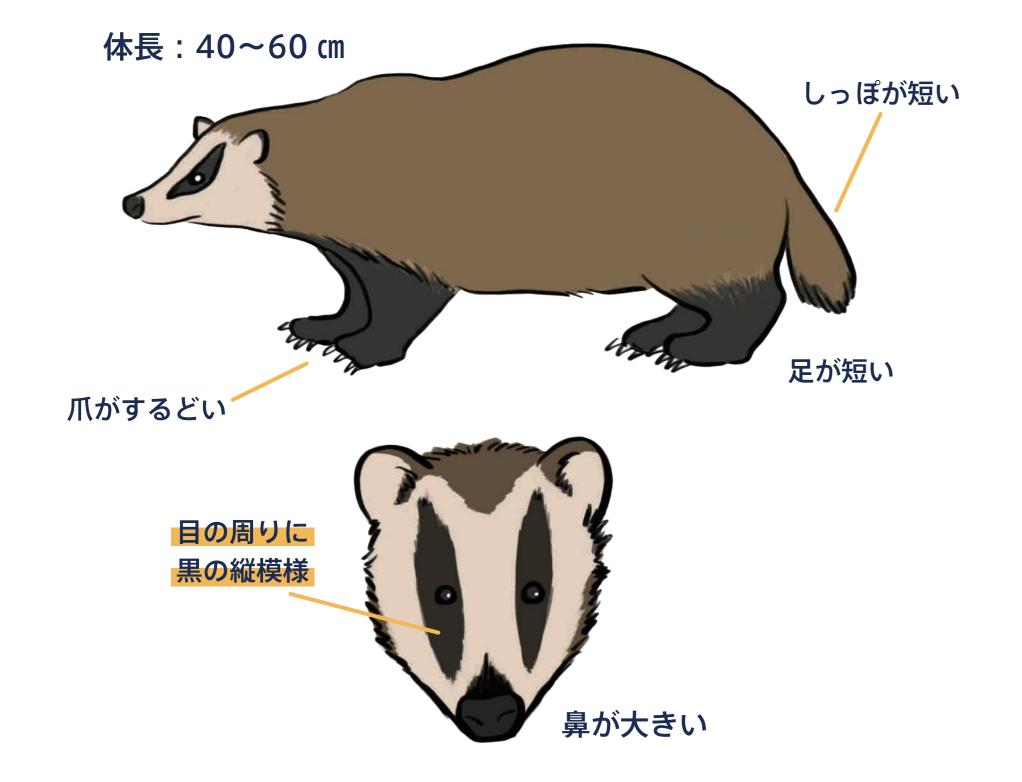
あまり目立たない



アナグマ

繋がらない

穴掘り上手。また、人が近寄ってもあまり気にせず、 夢中で食べ物を探している様子がよく目撃されている。 のそのそと歩き、おっとりとした性格。



アライグマ

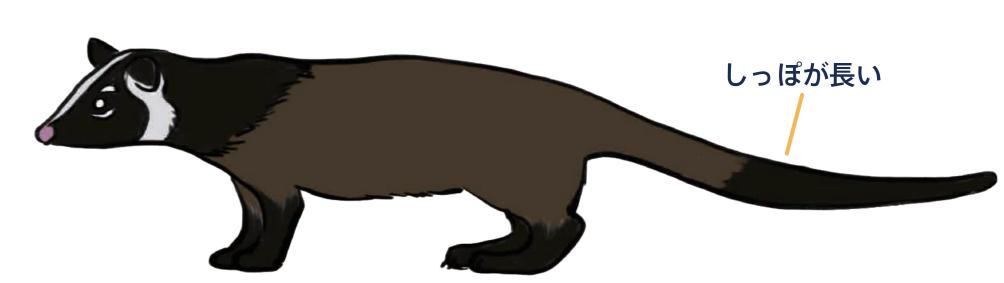
北米からやってきた外来種。 人が飼育しきれずに野外に放したことにより定着した。 木登りが上手。



ハクビシン

木登りが上手で、電線の上も歩ける。民家の屋根裏に住みつく こともある。外来種だが、日本にやってきた時代は古く 正確な年代については諸説ある。

体長:60~65 cm





高尾山のタヌキの痕跡

野生動物たちは警戒心が強いので日中はあまり登山道には出てきません。 実際に出会うのは難しいですが、生活している痕跡のフィールドサインは見つけるのが意外と簡単です。 どんな痕跡があるか知っておくと、登山中に探してみたくなります。 タヌキの暮らしを想像しながら探してみてください。





ため糞

タヌキは糞を同じ場所にする習性があり、 だんだんと糞がたまっていきます。このタヌ キのトイレは「ため糞」と呼ばれています。 登山道上で動物の糞を時々見かけますが、タ ヌキはため糞をすることで、一か所にたくさ んの糞があるため見分けるのが簡単です。





足跡

タヌキの足跡は犬の足跡によく似ています。 見分けがなかな難しいですが、 歩いている場所などが大事なヒントに

なることがあります。

雨上がりの水たまりの周辺、水際の湿ったところで見かけることがあります。とくに雪が積もった後は足跡がはっきりと残りやすく、見つけるのには絶好のチャンスです!



ため糞



タヌキのため糞場には、たくさんの糞があるのですが、これは一匹のタヌキの糞だけではなく家族や近くに暮らす複数のタヌキの糞です。集団で共通のトイレを利用しているのです。そのため大きいため糞場は、大きさが 1m ほどの直径になることもあります。このため糞が行われるため糞場は、夏よりも秋以降に利用する頻度が高いため、冬の方が多くの糞が溜められています。また、夏は糞を食べる昆虫たちが活発に活動しているため、目立たなくなります。

何のためにため糞をするの?

タヌキのため糞は、タヌキ同士の情報交換の場として使われています。動物の痕跡の中でもタヌキならではのものです。 タヌキは他の動物に比べて寛大で、行動圏内の他のタヌキを追い出すようなことはしません。

■近くに住んでいるタヌキとの情報交換

家族や隣接して暮らすタヌキの糞のにおいを嗅ぐことによって、他のタヌキの 状況を把握していると考えられています。特に頻繁にため糞場を利用する秋は、 子ダヌキの独立と分散の時期であること、オスとメスがカップルになる時期であ ることから、タヌキの子の分散やペアの形成と関係があると考えられています。

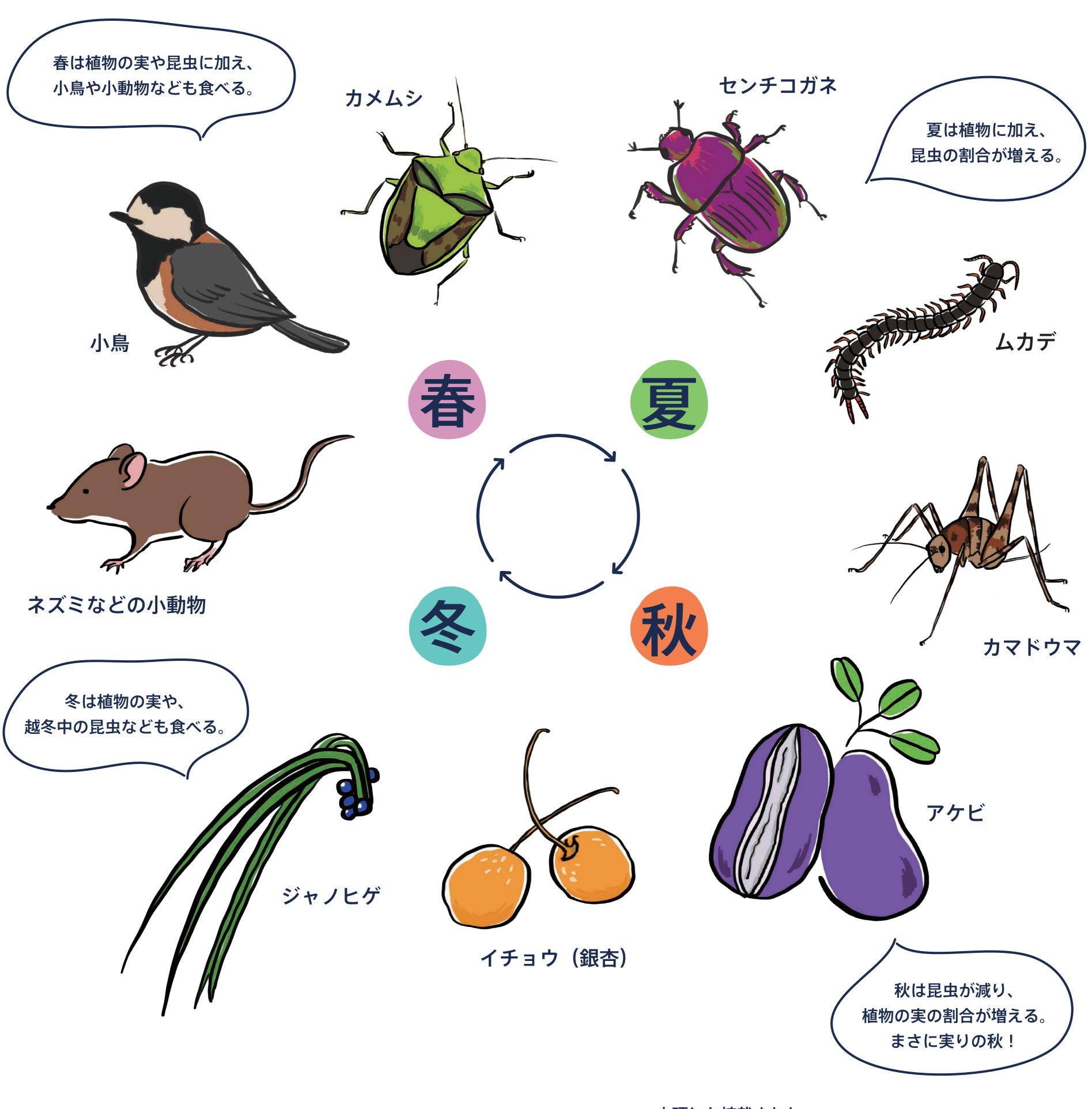
採餌

ため糞場にはハネカクシの仲間やコオロギの仲間が糞を食べにやってきます。 それらの昆虫を捕まえて食べます。



食生活

タヌキは雑食のため、昆虫や鳥、ネズミなどの小動物や植物の果実など様々な物を食べます。 季節の移り変わりによって、その種類や割合は変化し、季節ごとに傾向が見られます。



糞からわかる

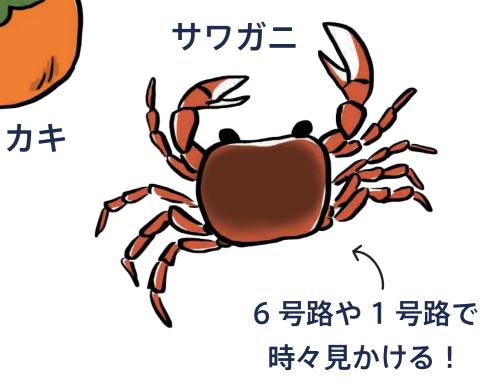
その時期の主食と周りの環境

高尾山の山頂付近に、タヌキたちがよく使うため糞場があります。

そこをよく覗き観察していると、その時にタヌキたちがどんなものを食べているかがよくわかります。 例えば 11 月頃には、たくさんのカキやイチョウの種が入っていしました。

また、昆虫の体の破片もよく混じっているのですが、サワガニの脚が入っていることもありました。 糞を観察することで、周囲の植生や環境などの情報も読み取ることができますね。

山頂にも植栽された カキの木がある!



タヌキの抱える問題

人里近くに暮らすタヌキだからこそ、私たちは彼らとの距離の取り方についてよく考えなくてはいけません。

高尾山でも、以下のような問題が実際に起きています。

餌付け

餌付けすることによって、高カロリーな人の食べものを食べ、ビタミンや食物繊維などが摂れず栄養のバランスが悪くなります。また、本来の採餌行動をとらなくなったり、人の生活圏に頻繁に出てくるようになったりしてしまいます。人家の庭にため糞をして悪臭が問題になることや、農作物への被害が出てしまうこともあるそうです。

以前、高尾山の山頂にも人に慣れてしまったタヌキが、度々姿を現すという事例もありました。





ごみ問題

高尾山のタヌキのため糞場を見ていると輪ゴムやビニールの破片が入っていることがあります。人が捨てたり、落としたゴミをタヌキたちが食べてしまっているのです。タヌキの糞に人工物が混じることは他の場所でも確認されているようで、食感やゴムの匂いを食べ物だと思ってしまっているのかもしれないと考えられています。

疥癬(かいせん)

疥癬はセンコウヒゼンダニに感染すると起きる皮膚病で、皮膚がカサブタのようになり、毛が抜けてしまいます。そのため体温の調節ができなくなり寒さに耐えられなくなります。このダニが人のペットから由来するのか、自然界にもともとあるものなのかはわかっていません。

3 号路で撮影された疥癬により毛が抜けたタヌキ 毛が抜け、体温調整がうまくできなくなってしまうため、日向を求めよく人前にも出てくる→



さいごに

高尾山は登山者がたくさん訪れる山です。都心から近く、アクセスも良い気軽に自然と触れ合える山だからこそ、野生動物と人との距離が近くなりやすく、様々な問題が起こっています。 タヌキたちが暮らせる豊かな森を残していきながら、

野生動物たちとの距離や関わり合いを意識して、高尾山の自然を楽しんでいきたいですね。